

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぽぽ		
所在地	〒859-3234 長崎県佐世保市長畑町450番地1 (電話) 0956-20-4625		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75 歳	最低 72 歳	最高 84 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院・佐世保中央病院・千住病院・川原歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入り、上り坂に沿って行くと法人関連の福祉施設等が立ち並び、最後にホームがある。途中に川やたんぽ、踏み切りがあり郷愁漂うロケーションである。ホームにとって、今年は相次ぐ退職者等に伴う異動で5月に職員の半数が入れ替わり大きなエネルギーを消費されている。ピンチをチャンスに変えた全職員の【その人らしさ】と【寄り添い】を目指した取り組みとして、入居者を知る手がかりを入居者・家族とのコミュニケーションの心がけで入居者の顔つきの変化につなげられ、訪問した日と同じように穏やかな冬の日差しが暖かく感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年の5月に管理者も異動着任され、ホーム全般に精通した職員も異動したため業務が完全に常態化するのに半年ほど時間を要されている。改善計画シートの作成の取り組みも真摯にされたが、一昨年の外部評価に対してのものでホームの経歴把握に至っていないことを反省されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>概ね2週間の期間を設けて、1部の外部評価票に全職員が自発的に記載する方法で臨み管理者がまとめられている。職員には、項目内容と業務、意義について説明されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、市の同意を得て法人内の同地域にあるグループホーム4ユニットと小規模多機能ホームが合同で、3ヶ月に1回、第三木曜日の16時から定例開催されている。各ユニット等の行事案内や報告を中心に出席メンバーからの活発な意見や感想を聴取され、サービスの向上に反映させると共に地域への浸透を実感されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の生活支援担当職員制が取り入れられており、家族の面会時に本人の近況や健康状態は勿論のこと職員との双方向のやり取りができる環境づくりをされている。事例として、「オムツの使用量が増えているがどうしてですか?」の質問を挙げられた。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議メンバーを仲介役に地域との情報交換や交流の機会作りに努められている。又、地域の商業施設を積極的に利用されており、入居者の外出・利用支援にもつなげられている。他に、ホームの行事に近くの保育園児が演芸参加し、入居者と園児の触れ合いにつなげられてもいる。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と介護目標をサービス提供の指針とした実践を目指されている。職員の退職・異動が偶然にも続き、管理者を含めホーム職員の半数近くが入れ替わっている。これを機会に[その人らしい]をキーワードとした独自の理念の作成も検討されている。	○	気持ちも新たに地域に溶け込んだホーム生活の目標として、入居者や職員の気持ちが込められた身近な目標としての独自の理念の作成が期待される。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービス提供の根底に[その人らしく生活していただきたい]という全職員の思いがある。前任の職員が残した[プラス言葉、マイナス言葉]の張り紙が職員休憩室に残されており、現任職員の(挨拶とコミュニケーション)に活かされている。又、声かけに付随して些細なことも見落とさないよう(観察)から得られる情報にも配慮した取り組みに努められている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議メンバーを仲介役に地域との情報交換や交流の機会作りに努められている。又、地域商業施設を積極的に利用されており、入居者の外出・利用支援にもつなげられている。他に、ホームの行事に近くの保育園児が演芸参加し、入居者と園児の触れ合いにつなげられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年の5月に管理者が異動着任され、ホーム全般に精通した職員も異動したため業務を完全に常態化するのに半年ほど時間を要されている。改善計画シート作成の取り組みも真摯にされたが一昨年の外部評価に対してのものでホームの経歴把握に至っていないことを反省されている。自己評価に関しては、概ね2週間の期間を設けて1部の自己評価票に全職員が自発的に記載する方式で臨み管理者がまとめられ、職員には、項目内容と業務、意義について説明されている。	○	今回の、職員の半数異動は特例ではあるが、今回のことで学ばれた[つなぎ]の大切さと[報・連・相]を今後の業務、職員育成に活かされることが望まれる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の同意を得て法人内で同地域にあるグループホーム4ユニットと小規模多機能ホームが、合同で3ヶ月に1回、第3木曜日の16時から定例開催されている。各ユニット等の行事案内や報告を中心に出席メンバーからの活発な意見や感想を聴取され、サービスの向上に反映させると共に地域への浸透を実感されている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回の改善を期待したい項目であるが、引継ぎされていないこともあり、引き続き、取り組みを期待したい。市町村窓口への担当がホーム長(統括)になっているので、ユニット単独での取り組みには難しいものがあるが、反面、法人全体の取り組みとしての活路で大きな成果が期待できる。	○	相談員制度の導入や地域住民・入居者の家族等を対象とした認知症キャラバンメイトの取り組みなどの行政資源活用など、連携した取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活支援担当職員制が取り入れられており、家族面会時に本人の近況や健康状態などの報告につながるよう努められている。面会の頻度によっては、家族に請求書を取りに来てもらうなど工夫されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や意見など聴取されている。事例として「オムツの使用が増えているがどうしてですか？」の質問を挙げられた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職と異動が重なった今回の異動は特例ではあるが、職員の半数が入れ替わり、入居者、職員に大きなリスクが課せられたのは否めない。幸いなことに入居者に大きな変化は見られなかったそうである。	○	環境の変化がもたらす心身への影響は計り知れないものがあることを心に留め置かれ、異動や離職に対する環境の変化を最小限に止める工夫・努力が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	復命扱いの研修は勿論のこと、自発的な研修受講も現場に持ち帰って口頭で伝達したり資料を提供するなど職員のスキルアップと情報の共有に一貫した取り組みが全職員に浸透している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の管理者会議の中で、他のグループホームとの研修や忘年会など親睦会を計画中であり、管理者も積極的な意向を持たれている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者担当職員制を採られているので、部屋の掃除から生活支援に至るまで担当職員が主に関われるよう体制作りをされており、【寄り添い】と【その人らしさ】に響く支援で本人の安心・安定につながられている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として接することを心がけられている。中でも、口数の少ない入居者から家族のことなど話してもらった時は【嬉しい】と満面の笑みを浮かべ回想されていた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員の異動でホーム生活環境の復帰・常態化に向けた取り組みとして、【家族・本人とのコミュニケーション】と【観察】の重視に心がけられ、入居者のその人らしさの追及につながられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントにセンター方式を取り入れられており、入居者本人や家族の希望や要望などを入居者担当職員を中心に把握されている。キーワードの【ここでどのような生活がしたいか】にポイントを縛られ、毎月のミーティング時に、日々の申し送りなども参考に担当職員や計画作成担当者が中心になって話し合わせ、利用者本位の介護計画作成に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者、ケアマネジャーは介護計画の見直し等につながる日々のケース記録のあり方に不足を感じ、職員にもそのことを告げられ改善の意向を持たれている。</p>	○	<p>日々のケース記録に介護計画に沿った実践記録とモニタリング評価等の記載の必要性を痛感されているのでケース記録様式を検討され、入居者の現状に即した介護計画の見直し・作成につながることが望まれる。</p>

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に専門科や遠方の病院受診は家族対応であるが、家族からの依頼があれば職員が代理同行で受診支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関でもある母体医院で審査受診されているケースが多く、母体医院の診療科目である内科以外は入居者の希望でこれまでのかかりつけ医の継続受診を支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ該当者はないが、ホームとしてはターミナルまで関わりたい意向を持たれており、看取りの指針も作成されている。今後に備えて、ターミナルに関する勉強会の開催と必要性を痛感されており検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問当日の居室見学の際も、事前に家族の許可を得てはいるが、本人にも「お部屋を見せて欲しいと言われてますが、いいですか」など、一言お断りして居室を案内いただいた。又、記録物などの取り扱いも慎重にされており、特定の場所に管理・保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の流れの中に、入居者一人ひとりの心身の状態や生活パターン、動作ペースを取り入れた支援をされている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	これまでは検食と介助職員が同席していただけで、他の職員は別の場所で食事されていたが、訪問当日、初めて出勤全職員が入居者と同じテーブルに着かれ自前の弁当を食べられ、「入居者と違う食べ物でも問題なく良かった」の感想と直ぐにでも実行できることを伝えられた。傍で見ていても会話を楽しめながら和やかな雰囲気を感じられた。	○	まずは、入居者と職員が同じテーブルで食事をする実践され、できれば同じ食事を食されることで、入居者と職員が【同じ釜の飯を食う】共同生活者としての絆作りを通じた楽しい食卓作りが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、月・水・金に入浴支援をされている。職員は入浴支援用の衣類への着替えを入居者と一緒に脱衣所でされることもあり、入居者の羞恥心の軽減へつなげられている。又、介助しながら話をするなどリラックスした環境づくりもされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活動作の中に入居者の活躍の場を取り入れられており、テーブル拭きやお盆拭きなどの些細な場面での支援も大事にされている。又、役割として布製の手作りカレンダーの日付のところに(今日の日付)を貼り付けられるのを日課にされている入居者もおられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の心身の状態や天候に応じた支援ではあるが、買い物など入居者の声を聞きながら外気に触れる支援を心がけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の他に2箇所の出入り口があるが、玄関以外は必要に応じて開錠されている。玄関は日中施錠されておらず、必ず1人の職員がフロアに居て入居者の把握ができるように配置されており、鍵をかけないケアの実践につなげられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼・夜間を想定した消防訓練を地域住民にも参加いただいて開催されている。地域住民の参加はホーム機能の理解にもつながり協力体制の必要性と強化につながった。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに応じた食事摂取と水分摂取を心がけられている。水分補給に関してはペットボトルの使用で自主的摂取の支援もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、換気等にも充分配慮した共用空間で、落ち着いた雰囲気が漂うリビングは、集いや独り居が人の気配を感じながら自由に選べる環境である。又、テレビの傍には娯楽が楽しめるように本やレクリエーション道具が手の届く範囲に置いてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問当日、壁に掲示してある外食時の写真を見ている際、ある入居者が説明してくださり、「私の部屋にどうぞ」と声をかけて頂いた。家族の許可を得ている居室であり、入らせていただいた。椅子を勧められ家族写真の説明や子供・兄弟の話、プレゼント品の披露など本人にとって離れて暮らしている身内を身近に感じられる品物が本人の自慢であり、唯一の拠り所となっており、本人にとって安心できる場所になっている。		